



教育現場での実践事例

2017 . 8 . 2

トキワ松学園中学校高等学校

保健体育科 佐藤 毅



1) 教育現場の体系

国・文部科学省



教育基本法 学校教育法



学習指導要領

現状は . . .

『臓器移植』

中学 . . . 記載なし「保健」教科書 A～C社 なし
D社 コラム

高校 . . . 全教科中「保健」のみ
介護保険, 臓器移植, 献血の制度がある
ことについても適宜触れるようにする。

教科書 2社 a社 コラム

b社 今回 充実させることができた

補) 社会科「公民」 理科「生物」
教科書 各社 数行

2) 実践内容

< 高校保健 > 我が国の保健・医療制度 という項目

* 2か年で『生老病死』というテーマ

* 「生」宇宙誕生から植物、動物、生命誕生

* 「死」移植医療、尊厳死、安楽死、平穏死

* 2000年度から

* 4～5年は保護者・同僚から厳しい意見も

* なぜ 臓器提供・移植？

① 「生」と「死」

② 医療従事者

③ 家族の気持ち

☆ = 臓器提供・移植ではなく、
“きっかけ” を

50分 × 11コマ (2ヶ年目・4月～7月)

- (1) 今年度の説明・「4つの権利」
- (2) 「脳の特徴」 「脳の機能局在」
- (3) 「死とは」 「死の種類」
- (4) 「臓器提供・移植」 「臓器の種類」
- (5) 「脳死と植物状態の違い」

- (6) 「許容時間」 「法的脳死判定」
- (7) 「世界の歴史」 「日本の歴史」
- (8) 「欧米との死生観の違い」 「件数」
- (9) 「免疫」 「拒絶反応」 「HLA」
- (10) コーディネーターの講義 (2011年度～)
- (11) 「問題点」 「意見交換」 「まとめ」

< 中学・高校道徳 > 生命尊重という項目

* 他校へ出前道徳50分×2コマ、3コマの場合
(2013年度～計11校)

* 自校の中学道徳50分×4コマ (2014年度)
1コマ (2016年度)

* 導入に細心の注意を

○自分の身体○脳○死○種類○許容時間

○歴史○欧米との差○件数○用語

○法的脳死判定○問題点○意思表示の方法

○宿題○意見交換

留意点

- * 歴史や現状を伝えるだけ
- * 親・自分・35人
- * インプット→アウトプット
= 『リアクションペーパー』
- * 家族・友人と話そう

結果的に

きっかけ→知る→ 「提供したい」が増えている
(成果は参考資料2をご覧ください。)

3) 今後に向けて

授業を通して

「生かされているということに気付くこと」



主体的にいのちの大切さや死生観を考えられる



家族と話し合う・自分の意思を持つ



その中に臓器提供に賛成か反対かを表示

- * 6月20日・21日に岐阜県15歳未満の15例目提供
「知っていた」「話していた」
- * 現在の日本の状況、件数は臓器提供・移植について周知されているの結果でしょうか？
- * アイディアで一番多いのは

授業（義務教育で必修）

- ◆ 文部科学省が「道徳」教科化
2018年度から小学校 2019年度から中学校

◆手を取り合う⇒ 厚生労働省 と 文部科学省
次世代を担う児童・生徒が
いのちの大切さ・死生観について自ら考える
ことができるようにカリキュラムの中へ。
それには、臓器提供・移植の「指導案」が必要

＝社会の認識が深まる



ご清聴 ありがとうございます

